

# 京極読書新聞 <第75号>

発行日 平成28年1月15日(金)  
京極町生涯学習センター湧学館

## 山麓文学館3 …… 七年目の「後志の文学」講座

新谷 保人 (湧学館司書)

湧学館が「後志の文学」講座を立ち上げてから、早七年。ある年は「後志の文学読書会」、ある年は「峯崎ひさみ読書会」というように、毎年視点を少しずつ変化させては毎月の読書会を維持してきました。

その中でも、ここ三年間続いた「山麓文学館」シリーズは、私たちにある種の到達感のようなものを与えてくれます。江戸時代の松浦武四郎から現代の佐々木譲まで、私たちが「京極」というものを考える時のイメージの広がりはとてつもない大きさになっているのではないのでしょうか。



5月15日(金) / 読書室 「東俱知安と文学」  
6月12日(金) / 読書室 吉村昭「与三吉」  
7月10日(金) / 読書室 佐々木譲「オージー好みの村」  
8月 / 配布 湧学館オリジナル編集「岩田宏詩集」  
9月11日(金) / 視聴覚ホール 映画「華の乱」(深作欣二監督)  
10月10日(土) / バスの旅 峯崎ひさみ「突然の花便り」

### 平成27年度 製本教室 「後志の文学」講座の完成へ

「京極読書新聞」前号で、1970年代京極町で発行された『京極文芸』全15冊の復刻作業開始をお知らせしましたが、今年度の製本教室も、この流れに連動しています。これからの湧学館のあり方を占う作品群を題材に取り上げました。

製本教室は、2月13日(土)～3月5日(土)～3月19日(土)の実習を軸にした約一ヶ月の長丁場作業です。1日だけの参加や、飛び込みでの当日参加には対応できませんのでご了承ください。参加費は無料です。材料・道具も湧学館で用意します。詳しくは図書カウンターの案内チラシで。

#### ① 針山和美作品集

『京極文芸』誌上に発表された針山和美氏の全作品「支笏湖」「湖にて」「三郎の手紙」「女囚の記」「敵機墜落事件」「重い雪のあとで」「山中にて」の7作品を湧学館読書会テキスト仕様でつくりまします。

#### ② 石橋孝弘詩集

京極在住の詩人・石橋孝弘氏が長年書きためてきた詩30編を一冊の詩集にまとめます。7年間続いた製本教室の歴史の中でも、オリジナル原稿から一冊の本をつくるのは今回が初めて。この試みには、いつか自分の本をつくりたい人たちの夢もかかっています。

京極読書新聞 第76号は  
3月1日発行予定です。



# 『平家』と京都と京極と… —アンケートの結果と分析—

〈『平家物語』を読む会〉村山功一

前号で紹介したアンケートの集計を示し、若干の分析を試みたいと思います。

### (1) 回答者

回答者は調査を担当する黒滝さんの友人・知人・仕事上の関係者など50人。また対象とした人々は、必ずしもいわゆる“生粋の”京都人を意味しない。あくまでも、調査時点で京都に住んでいる人である（京都出身者は50人中19人）。

### (2) 各項の結果・分析

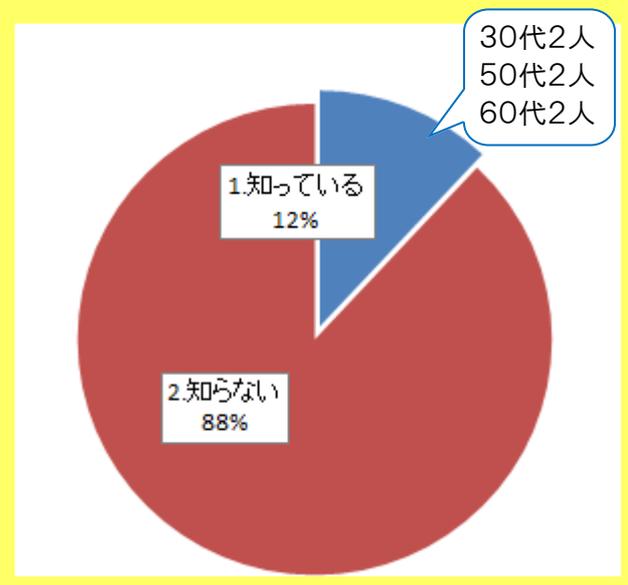
◆Q1は予想どおり約9割の人が「知らない」と答えている。一方で「知っている」人が約1割、実数で6人いたことは嬉しい限り。

◆Q2「公家」と答えた人の実数が26人、「武家」と答えた人21人、「分からない」が3人という結果である。ここでは「公家」が圧倒的だろうと予想した。京極を名乗る人物のイメージに、京都という地域の特性が反映されるのではないかと、思っていたの設問だった。しかし、「公家」「武家」が伯仲する結果は、やや意外だった。

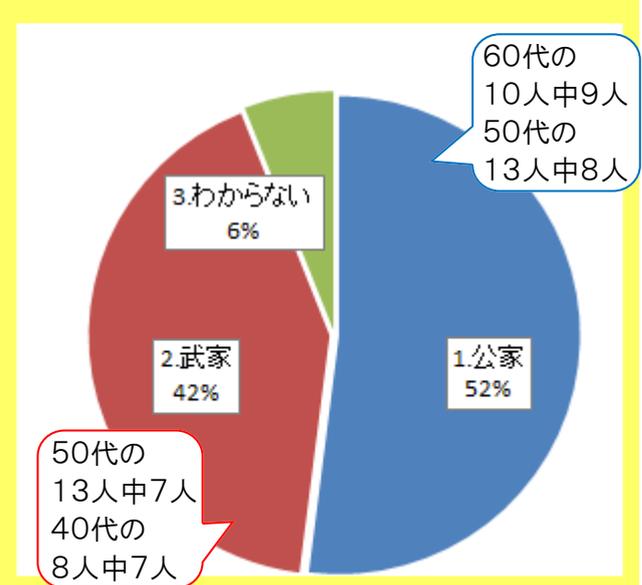
◆Q3は複数回答可とした。ここでは「2. 京極為教（公家・歌人）」に集中するのではないかと予想したが、「3. 京極氏信（武家・京極氏の祖）」とほぼ同数となり先のQ2同様伯仲する結果となった。ここで、「分からない」と答えた20人は実数だろう。残り30人の回答者は、示された人物5人の、少なくとも1人は知っていたことになる。あるいは5人全員を知っている回答者が居たかも知れない。延べ17人が「知っている」と答えた「4. 京極殿」は“秀吉の側室”というヒントが手掛かりになったか、あるいは京極竜子を知っている人が多かったのかも知れない。だが、それが直ちにQ4の回答には結びついてはゆかなかったようだ（私もそうだった）。

◆設問そのものに大きなミスを犯した（前号参照）Q4であったが、それにもかかわらず、正答である「3. 京極氏信」「5. 京極殿」と答えた人が、17人と圧倒的多数だった。ここでも〈京極といえばお公家さん〉という予想は覆された。この結果を見る限り、京極町と関わりのある人物として（明確に京極高德をイメージしたかどうかは別として）、武家京極氏の家系であることを約6割強の人（「分からない」を除く）が認識して

Q1 北海道に「京極町」という町があるということを知っていますか？



Q2 京都人にとって「京極」という人名はどちらのイメージですか？



いたということだ。これは「くさすが」というべきだろう。また「3」「5」と答えた人に若い年代層が多かったことも、一つの特徴だろう。黒滝さんが聞き取り調査したところ「高校の授業で聞いたような気がする」「共通一次対策で勉強した」と答えたという。日本史の織豊期、幕末期の単元で京極氏に触れる機会があったのだろうか。なかなか興味深いことだ。

\* 共通一次試験…現在の大学入試センター試験の前身

(3) 年齢層の分布

次に、各設問について、どの年代がどう答えているかを眺めてみよう。全体の年齢層は、20代8人、30代9人、40代8人、50代13人、60代10人、70代以上2人。

Q1で「知っている」と答えた6人の内訳は、30代2人、50代2人、60代2人であった。

Q2の“京極”のイメージとして公家、武家どちらを想起するかという設問で、60代の10人中9人、50代の13人中8人が「公家」と答え、他の年代を大きく上回っている。また、「武家」と答えたのは40代が8人中7人、50代が13人中5人と多数を占めた。

Q3は複数回答としたので集計せず。

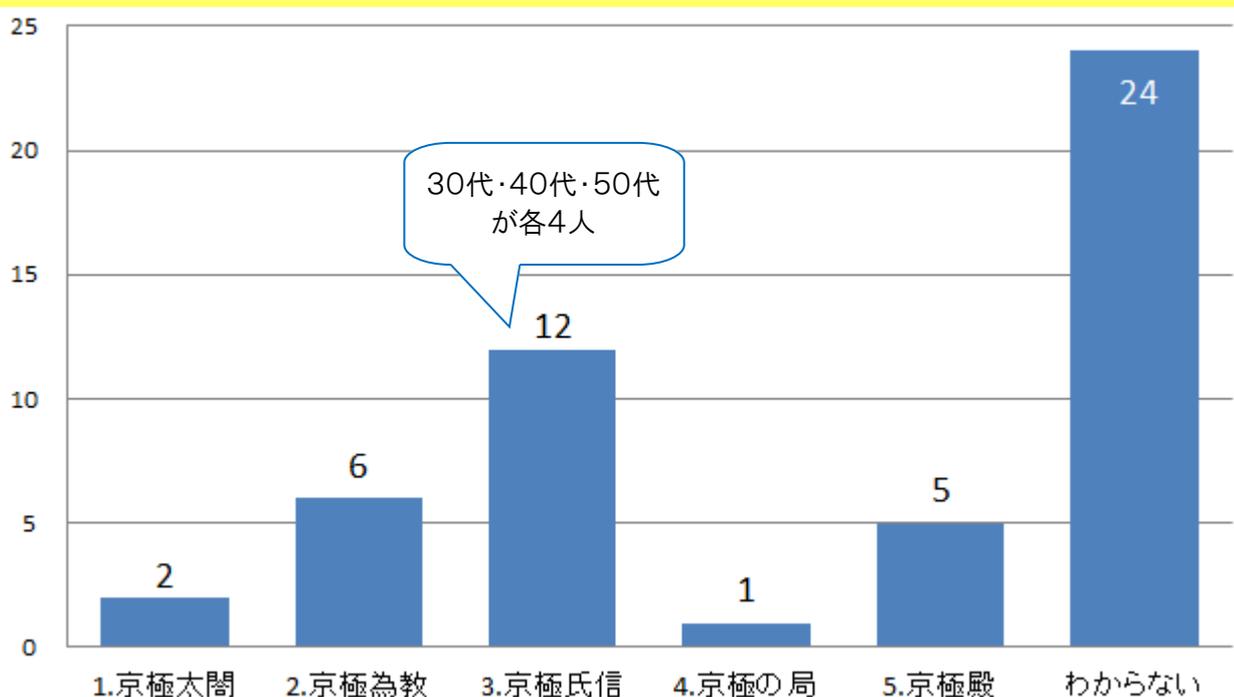
Q4で「分からない」を除く26名中、正答とした「3京極氏信」「5京極殿」と答えた人は計17名(65.3%)と高い正答率を示した。特に「3」は30代、40代、50代が各4人で、他の年代は0人という特徴的な結果となった。

(4) まとめ

いずれにせよ、分母50という極めて小規模な調査なので、この結果が直ちに京都の人々が抱く京極家や京極氏そして京極町に対する意識傾向を示すものではない。そのうえ各年齢層の人数もバラバラであるため、確実とはいえないがそれでも、たとえば、Q2に見られるように60歳代の圧倒的多数が「公家」の、40歳代以下の世代は「武家」のイメージが強く、50歳代には“揺れ”がある、というようなある程度の年代間傾向を認めることはできる。それはQ4にも現れている。また、少ないからこそ単に数値としての精密さではなく、このアンケートに協力してくれた方々の率直な個性が感じられ、より身近な現代京都人の“生(なま)の声”が聞けたように思う。

以上のようなアンケートを通して『平家』と京都、そして京極町を結び付けようとしたのですが、もちろんそれは短絡的で強引かとも思います。町名に名を遺した京極高德とその一族が、直接『平家』と結び付くわけではなく、京極氏の祖、氏信からさらに三代遡った佐々木盛綱、高綱兄弟が『平家』に登場するに過ぎません。しかも、佐々木氏も、その一族である京極氏も長い歴史の過程で複雑に枝分かれするのだから、事はそれほど単純ではないでしょう。それにもかかわらず執拗にこだわり続けるのは、<京極氏の系譜を辿っていけば『平家』辿り着く>という、ただそれだけのことに限りない歴史のロマンを感じるからなのです。

Q4 北海道後志管内京極町と関係のある人物または家系は、どれだと思いますか？



## 平成27年度のまとめ

今年度は生田の森、一の谷の合戦における平家の惨敗と、敗者である平家の人々の悲劇的運命…を読み進めています（継続中）。十万といわれた平家軍が、あっという間に敗退するのは、たとえ義経の“鶴越えの坂落とし”の奇襲があったにせよ、不可解なことです。その裏に隠された“史実”に触れたり、捕虜となった重衡の恋人“内裏女房”（巻十「内裏女房」）とは誰なのか、諸本によって異なるこの女性を探ってみたり…とか、ややふらふらと寄り道をしました。

“黒滝レポート”では今は“チューリップの町”として有名な砺波・倶利伽羅（富山）の古戦場、鳥取にある安徳帝の墓、淡路島では小宰相が入水したあたりとされる瀬戸内海の趣など、興味深い報告がありました。さらに、本紙74号、75号で紹介したアンケートにより、『平家』と京都と京極をつないでみる試みも行いました。

そんな訳で、今年はちょっと面白い展開になったように思います。新年度もさらに工夫を凝らし、マンネリに陥らず、楽しい“読書会”にすべく努力いたします。よろしくお願いたします。



## <『平家物語』を読む会> 村山功一

### 平成27年度 年間進行状況

#### 平成27年

- 4/ 3 (金)〔巻九〕「二度之懸」
- 4/18 (金)〔巻九〕「坂落」
- 5/ 8 (金)〔巻九〕「坂落」
- 5/22 (金)〔巻九〕「越中前司最期」
- 6/ 5 (金)〔巻九〕「忠度最期」
- 6/19 (金)〔巻九〕「重衡生捕」
- 7/ 3 (金)〔巻九〕「敦盛最期」まとめ
- 7/17 (金)〔巻九〕「知章最期」後半
- 8/ 7 (金)〔巻九〕「小宰相身投」導入
- 8/21 (金)〔巻九〕「小宰相身投」①
- 9/ 4 (金)〔巻九〕「小宰相身投」②
- 9/18 (金)〔巻九〕「小宰相身投」③
- 10/ 1 (木) 黒滝レポート (16:00~18:00)
- 10/16 (金)〔巻九〕「小宰相身投」まとめ
- 11/ 6 (金)〔巻十〕「首渡」①
- 11/20 (金)〔巻十〕「首渡」②
- 12/ 4 (金)〔巻十〕「内裏女房」(前半)
- 12/18 (金)〔巻十〕「内裏女房」(後半)

#### 平成28年(予定)

- 1/ 8 (金)〔巻十〕「内裏女房」まとめ
- 1/22 (金)〔巻十〕「八島院宣」「請文」①
- 2/ 5 (金)〔巻十〕「請文」②「戒文」①
- 2/19 (金)〔巻十〕「戒文」②
- 3/ 4 (金)〔巻十〕「海道下」①
- 3/18 (金)〔巻十〕「海道下」②

\* …連休等に伴う日程変更 ○ …行事等

### 発行

京極町生涯学習センター湧学館  
〒044-0101 京極町字京極158番地1  
TEL 0136-42-2700(代表)  
FAX 0136-42-2032  
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください  
<http://lib-kyogoku.jp>

